

| | | | | | |
|----------|-------|-----|---------|-----|---|
| 授業科目名・形態 | 薬理学概論 | 講義 | 必修・選択の別 | 必修 | |
| 担当者氏名 | 金沢 久男 | 開講期 | 1年後期 | 単位数 | 1 |

【授業の主題】

薬物は、生体に作用して生物学的反応を引き起こす化学物質である。その中で、法律で定められ医療に用いられるものを医薬品といい、疾病の診断、治療、予防など医療一般に用いられる。本講義では、医療に用いられる薬物の薬理学を学び、看護師・助産師として必要な薬物療法の基礎知識を習得する。

【到達目標】

1. 薬理学とは何かを学び、薬物療法における看護師の役割を理解すること。
2. 薬が作用するしくみ（薬力学）と薬の体内の挙動（薬物動態学）の基本を理解すること。
3. 薬物使用の有益性と危険性を理解すること。
4. 薬と法律の関係についての基本を理解すること。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 薬理学とはなにか（薬理学のなりたち、薬物療法における看護師の役割）
- 第 2 回 薬が作用するしくみ（薬力学）
- 第 3 回 薬物動態学（吸収・代謝・分布・排泄）
- 第 4 回 薬物動態の指標、薬物投与計画（TDM）
- 第 5 回 薬物相互作用
- 第 6 回 薬効に影響する因子、小児・高齢者への薬物投与
- 第 7 回 薬物使用の有益性と危険性（副作用、妊婦・授乳婦への薬物投与、薬害）
- 第 8 回 薬と法律（薬の管理・保管、新薬の開発と治験）

【授業実施方法】

講義形式を主体とし、教科書、PC（パワーポイント）を用いる。

【授業準備】

予習と復習を実行してほしい。「予習をしてきたこと」を前提に講義をするので、「教科書」を読んで講義を受ける際のポイントを把握してほしい。

【主な関連する科目】

臨床薬理学

【教科書等】

系統看護学講座専門基礎分野「疾病のなりたちと回復の促進③薬理学」14版
著者：吉岡充弘・泉 剛・井関健；医学書院

【参考文献】

今日の治療薬 解説と便覧 2019：南江堂

【成績評価方法】

筆記試験 90%，授業態度等 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

日常生活の中で医薬品に関心を持ち、疑問点について「調べる」習慣を身につけてほしい。また、医薬品に関する報道に関心をもってほしい。